

着物と一言でいっても様々な種類があります。  
振袖・留袖・訪問着・付け下げ・小紋・無地などです。  
なかなか一人で着ることも難しく着る機会も多くはありません。  
しかし、せっかく着る機会があるのであれば、ちょっと面倒でも  
着物を着て記念日や普段の一日を楽しむのも良いかも知れません。  
フォーマルな時の洋服選びは意外と悩んでしまうものです。  
しかし着物ならその悩みが、着物を選ぶことができるという楽しみに変わりります。  
そして、何よりも特別感と普段見ることない自分に出会えることでしょう。

想ひで惟い（おもいでおもい）

# 着物の楽しみ

～記念日の想いでをデザインする着物レンタル～

## KANEMATA ANNIVERSARY STYLEBOOK



カネマタ衣裳店 スタッフ一同

この度は誠におめでとうございます。

この冊子は、記念日の意味合いや所作を知つていただくこと、

記念日をより一層、有意義に過ごしていただくために生まれました。

衣裳を貸すだけではなく、

皆様の記念日の想いでをデザインできたのなら幸いです。

良き一日となることを願つております。

KANEMATA

— つなぐ想いで —

〒475-0855 愛知県半田市中町1-74

TEL 0569-21-1085

AM9:00～PM6:00[定休日：水曜]

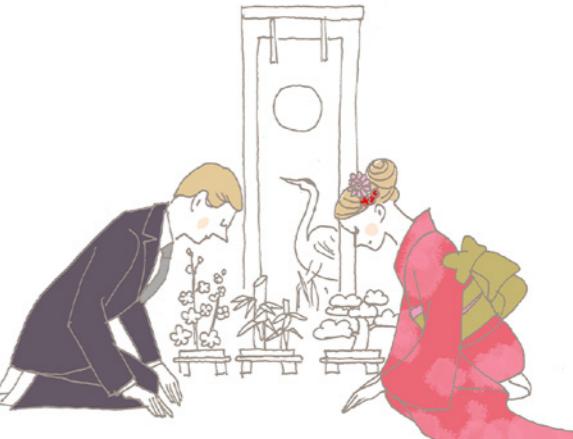
(祝日の場合は営業)



ネットレンタル  
留袖



ネットレンタル  
訪問着・色無地



大体が4月に行われる入学式。桜も咲き着物を着るには一番良い時期です。春らしく、そして入学式というこれから成長を願う華やかさのある着物がいいのではないかと思います。入園、入学式などのきちんとした場には「訪問着」や「付下げ」の古典柄あるいは色無地が目立たず品よく見られます。落ち着いた色柄のものがふさわしく明るい色彩の豊かなものだと華やかです。そして、是非ともお子様、家族と一緒に写真撮影をしてください。何年たっても新しい環境へ移った時の不安と期待を思い出されることだと思います。そして、その新しい出会いという楽しみに着物を着て華を添えて良き日にしていただけたらと思います。

華やかな訪問着、付下げ、色無地の和装などが基本ですが、一番の人気は正礼装とされる振袖。振袖は未婚女性の最も格式高い正装です。つまり、結婚したらもう着る機会がない着物になります。もしも手持ちの着物があれば、それを着るのもいいですし、レンタルだと成人式の時よりかなりお値打ちにレンタルなどもできる場合があります。ちょっとおしゃれをして結婚前の華やかな姿をお披露目して食事などを楽しんで素敵な日を過ごしてみてください。

◎ 桜・単衣・紹について時期によって選ぶもの



# CEREMONY STYLE & MANNERS

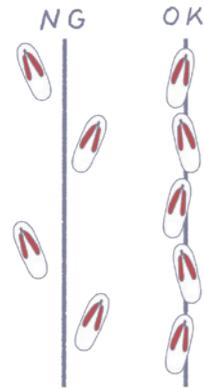
舞い方 立ち振る

①立ち姿勢

頸を引いて、頭のてっぺんからまっすぐ上に引っ張れる感じで背筋を伸ばし、胸を張り、腰をしっかりと伸ばすと綺麗に見えます。

②歩き方

内股でいつもの半分くらいの歩幅で歩きましょう。



③椅子のかけ方

帯があるので椅子の背もたれにもたれかかるのはNGです。



④車の乗りかた

頭をひくして、お尻から座ります。少し手でお尻を浮かし、足となるべくひらかないように、身体を反転させて、背もたれにもたれすぎないように座ります。

⑤階段の上り下り

身体を斜めにして、できるだけ小股で足元に注意しながら上り下りしましょう。



⑥袂の扱い方

手を肩より高く上げなければならぬ場合、片方の手で、袖を軽く押さえると、二の腕まで袖口が下がらず女性らしい仕草になります。



⑦末広の扱い方

挨拶をする際は手に持ちそれ以外では帯の左前側に挿しておきます。手に持つ際は、金の面を外(お客様)側、銀の面を内(自分)側に向けます。右手は訪朝を持つイメージで、左手は末広の先を支えるように添えます。



行き方 トイレの

着物を着る時は股上の浅い、ローライズの下着をはくのがおすすめです。トイレに入るときはできるだけ洋式を選ぶのもポイントです。袖は帯と着物間に挟むと邪魔になりにくいです。この時、クリップがあると挟んだ袖をしっかりと留められるので便利です。着物の上前→下前→襦袢の上前→下前、裾除けの順で帯の上のあたりまでしっかりとめくり上げ、身体の前に抱えます。このとき上前と下前を一緒に挟んでおくとずり落ちにくくなります。

最後には逆の順序で布がごろごろしないようよれを直し、裾の重なりやおはしょりがきちんとしているか確認しましょう。



必要な 小物

- ①肌着(肌襦袢、裾よけ、ワンピース肌着)
- ②足袋
- ③長襦袢
- ④半衿
- ⑤衿芯
- ⑥腰紐4~5本
- ⑦伊達締め2本
- ⑧コーリンベルト
- ⑨フェイスタオル3~5枚
- ⑩帯板
- ⑪帯枕
- ⑫帯締め
- ⑬帯揚げ
- ⑭末広
- ⑮草履バッグ

着付ける方によって違いもあるので事前に確認しておくといいです。



【同系色で合わせる】

代表的な合わせ方が「きもの柄の中から一色拾う」小物すべてを統一することではなく、どこか1つ帯揚げ、履物と帯をなじませるような中間色にするとよいです。反対色(補色)で合わせる。着物や帯とは、反対色の小物を合わせると若々しく引き締まった印象になります。小物すべてを反対色にするのではなく1点2点にとどめるのがポイントです。

【トーンを統一する】

色調や明るさを合わせることで、シンプルかつまとまりのある着こなしになります。ただ地味になってしまいがちなので、どれか1色目立たせてアクセントにするといいでしょう。

【衿元のゆるみ】

前のおはしょりを下に引っ張って調整してみてください。背中や腰がゆがんでくる背中側のおはしょりを下に軽く引っ張ります。

【帯が下がる】

タオルなどを帯の下に入れて厚みを出すことで締まりをしっかりとさせる。

【裾が下がる】

見頃がズレる→ズレを直して下がった部分はおはしょりの下に入れ込んで後ろも同じようにして裾を整えます。

【桜(あわせ)】

桜の着物とはその名通り生地を二枚合わせている着物のこと。表と裏の生地が異なるので、着物の裾をめくってみれば一目でわかります。

10月中旬頃～翌年4月下旬頃まで

【单衣(ひとえ)】

单衣の着物とは、桜とは異なり「生地一枚でできている着物」を意味します。单衣の着物に使用している生地は基本的に桜の着物と同じなのですが、裏地が付いていないので軽くて涼しいのが特徴です。

5月下旬頃から初夏、9月～10月頃

【紹(ろ)】

紹とは何本かの縦糸を撚り合わせつつ横糸を入れて織った織物のこと。他の素材に比べて織り目が荒く、透け感があるのが特徴です。着物に手を入れてみて、ストライプの様に透けたらほぼ紹の着物ということになります。

6月下旬～8月